

令和5年度 第2回 八尾市史跡保存活用審議会

日時：令和5年12月24日（日）10時～12時

場所：八尾市役所 701 会議室

【出席者】

（委員）菱田哲郎：京都府立大学 文学部 教授（会長）

瀧浪貞子：京都女子大学 名誉教授（副会長）

網 伸也：近畿大学 文芸学部 教授

吉川真司：京都大学大学院 教授

箱崎和久：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 都城発掘調査部長

清野孝之：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 企画調整部長

（オブザーバー）木村啓章：大阪府教育庁 文化財保護課 文化財企画グループ 総括主査

北川咲子：大阪府教育庁 文化財保護課 文化財企画グループ 技師

株式会社総合計画機構 後藤勇人・友國慎也

（事務局）西澤観光・文化財課課長、藤井係長、河村副主査

（傍聴）0名

【欠席委員】長友朋子：立命館大学 文学部 教授

中野眞也：曙川東小学校区まちづくり協議会

【次第】

- 1 開会挨拶
- 2 議事内容

1. 史跡由義寺跡の保存・活用について

案件：整備基本設計の作成 ー全体案の検討ー

【議事録】

案件：整備基本設計の作成 ー全体案の検討ー

事務局より、前回の審議会後に行った文化庁との協議内容を報告したのち、塔基壇復元の修正、塔基壇に上がるためのバリアフリーの課題と安全対策、下層基壇の表示方法、七重塔模型の設置位置について検討いただいた。

なお、冒頭に箱崎委員より12月17日に行った由義寺シンポジウムでの講演の概要を報告いただいた。

ー会長から委員への検討課題の確認ー

塔基壇へのアプローチについて、文化庁から整備基本計画で十分な議論がなかったとの指摘があったが、バリアフリーの課題は、整備基本計画の整備方針である「わかりやすく視覚的に伝える復元整備」を基本としており、その議論は延長上にあるものと考えている。

今年度までの発掘調査の成果をふまえて、これまで確定できなかった塔基壇の復元方法が前回の審議会ですこぶやくほぼ確定し、特に基壇の高さの確定、四半敷きや立体的な礎石など、基壇上面の仕様が煮詰まってきた。現地に来た人に、奈良時代の壇正積基壇を遠くから眺めるだけでなく、基壇に上ってもらい体感することを整備の目的として明確になった。審議会として、今回のバリアフリーや安全対策の具体的な検討について必要であることを確認した。

[塔基壇復元の修正]

(修正点)

- 基壇の高さを1.5m、階段の張り出しを1.5mに修正した。
- 基壇上面の四半敷きについては、出土凝灰岩を活かす方法を検討し、外縁を五角形に復元した。建物内部の塼敷きも出土した塼をもとに一辺28.3cmの正方形に復元し、四半敷きとした。

—委員の主な意見—

- ・基壇外縁の五角形の敷石は、古代においては類例がなく、正方形が基本である。
- ・五角形を採用するならば、基壇外縁ではなく、内側の礎石周辺で検討した方がよい。
- ・凝灰岩の復元案は小さすぎる。復元するにしても、正方形の一辺の長さを基本とし、古代の尺に合わせる必要がある。塼も同様である。
- ・塼は出土したものが一辺28.3cmで残存しており、正方形に復元できる。ただ、根拠は示す必要がある。焼成による縮小は生じるので、そのあたりも考慮しておく必要がある。
- ・由義寺の塔基壇は未知な部分が多いことから、河内地域での壇正積基壇の画期といえる河内国分寺の塔基壇を参考にすべきである。四半敷きは一辺60cm程度だったはずで、調査内容を再確認し、復元の参考にしてほしい。
- ・バリアフリーの観点から、スロープの接続位置との兼ね合いはあるが四方の扉部分のどこか（北側か東側）で地覆石を一段下げて、四半敷きに合わせてフラットにすることを検討した方がよい。
- ・四半敷き上面の雨水がたまらないよう、勾配を検討すること。

[塔基壇のバリアフリー]

- スロープの設置位置は、整備基本計画で検討したように、生駒の山並みと塔基壇が一体となった景観を重要視し、できるだけ視線に干渉しないことを前提として東側に設置する。その形状として、2案（塔基壇に沿う屈曲型（A案）・北側園路からの直線型（B案））を提案した。
- 利用者（徒歩・車いす）の動線（ガイダンス施設・入口・身障者用駐車場）のルートを説明した。
- 基壇周辺の土系舗装は、車いすのアプローチは可能。ただし、園路から溝を超える必要があるため、その対策が必要とした。

—委員の主な意見—

- ・スロープは常設なのか、仮設なのか。
- ⇒（回答）塔基壇とスロープは一体的なもので、常設と考えています。素材・デザイン等については、今後の議論ですが、塔基壇が石造であるので、スロープが木製であった場合、劣化が基壇

よりも早いため、将来的には景観上によくないと考えています。

- ・北側からの塔基壇のアプローチは、理解した。できる限り最短の距離を考えてほしい。
- ・スロープの形状であるが、由義寺は河内国分寺以上のより具体的な壇正積基壇の復元が方針であることを考えれば、側面はできる限り、見えた方がよい。その場合 (A) 案は、隠れる範囲が多い。

(B) 案は、伸びるスロープが目立つ。対案として、外には広がるが東側で折り返すと、隠れる部分が少なくて済む。また、スロープはできる限り階段側に寄せておくこと。これらは、設計上可能か。

⇒ (回答・設計業者) 車いすが折り返すスペースが必要で、若干外に張り出し、3列程度になります。できる限り3列目は短くできるか検討したいと思います。

- ・スロープの高さはどうか？

⇒ (回答) 手すり等が必要なため、基壇から上に飛び出す可能性があります。(スロープについては、立面図を作成し、傾斜角・手すり・デザイン (素材) 等のイメージを共有する。)

[塔基壇の安全対策]

○柵や手すりの設置目的は、転落防止か動線遮断 (注意喚起) なのかで、その方策が変わることから、動線遮断として、上下式のバリカーポールの設置を提案した。

○転落した時の対策は、基壇下の周囲をクッション床材にすることを提案した。

—委員の主な意見—

・古代の基壇がそのままあると考えれば、上下式とはいえ、ステンレス製のものが四方にまわるのは、そぐわない気がする。また、床石材に穴をあけての施工は難しいかもしれない。

・大人数の見学やイベント等、転落事故が予想される時に、可動式の柵 (水入れ式のチェーンポール等の備品) を設置することで対応してはどうか。

・安全対策のクッション材については、土系舗装に似せるといっても、違う素材である。雨落ち溝や他の遺構の表示と誤解する可能性がある。基壇上面に結界があれば、十分に転落防止の注意喚起になるのではないか。高さ 1.5mだと、飛び降りたり転落したりすることはないと思う。平城宮の大極殿でもそういった事故はない。

・来年度の調査で、塔基壇の雨落ち溝等が確認できれば、クッション床材の導入も検討してもよいかもかもしれないが、現状は、可動式の結界に留めておく方がよい (他の委員も異議なし)。

[下層基壇の表現方法]

○塔基壇の復元に影響しない程度で、四隅にステンレス製の鋳で示すことを提案した。

—委員の主な意見—

・ステンレス鋳は、飛び出るものか。

⇒ (回答) 飛び出るが、石材を削って鋳を埋め込むことは可能です。

・下層基壇の表示は必要だと思うが、あまり目立つものでない方がよい。丸鋳を四隅に置くのはどうか。

・丸鋳ではわかりにくく、小さなL字のもので、基壇の範囲を示してほしい。

・一般の方にわかりやすく伝えるというのなら、基壇の上面に細い溝を切り、正方形を示すという方法もある。

・鋳の意味は、説明板等できちんと説明することにし、塔基壇の上面を損なわない程度に下層基壇の存在を現地で理解できる表示とする（L字の小型鋳がよいか）。

・ガイダンス施設で、上層及び下層基壇の関係を剥ぎ取り土層（予定）で解説するなど、現地と施設相互で説明効果が得られるようにすること。

[七重塔模型の設置位置]

○整備基本計画では24時間開放部分にあたる史跡指定地外のガイダンスゾーンの北側入口で検討していたが、維持管理上、難しいことから史跡指定地内で、①塔基壇南側、②同北西側、③史跡指定地東側入口に設置したうえでのメリット・デメリットを提示した。

－委員の主な意見－

・塔の模型の高さはどのくらいになるのか

⇒（回答）整備基本計画で検討しましたが、1/10では約7m、1/20で約3.5mあります。国宝の五重小塔（1/10）よりも大きくなり、屋外であることから、現実的には1/20の模型になるかと考えています。

・西側では離れすぎて、やはり塔基壇との関係がわかり、閉鎖時でもよく見える南側がよい。

・道路（車）からも見えた方がよいことから、塔基壇の南側でも東の道路よりにした方がよい。

・模型作成にあたっては、塔のバージョンアップがわかるように下層基壇の部材と色分けするなどの表現を検討できればよい。

・早川氏の絵がある看板はどうするのか。

⇒（回答）塔基壇のすぐ東側に位置することから、撤去を想定していました。

・車からでもよく見え、史跡の周知には効果的な看板である。可能ならば、車からの見え方も考慮して東側入口付近に移設を検討してはどうだろうか。地元の意見も聞いておいてほしい。

⇒（回答）再検討します。

・主要幹線からの現地へのアプローチはどうするのか。

⇒（回答）整備基本計画で検討したように、道路に方向サインを設置することで検討・調整していきます。

[次回の審議会について]

3月に整備基本設計の最終を議論できればと考えています。

観光・文化財課課長挨拶にて閉会